

第5章 学識経験者の所見

1 学識経験者の所見

令和8年8月7日
学識経験者 植木啓仁

はじめに

令和3年度に策定された「阿波市第2次教育振興計画（前期計画）」は、令和7年度末で5年を経過し期間終了となる。今回、令和7年度の施策を対象とした阿波市教育委員会の点検・評価に関する報告書を第三者の視点で検討・評価を行ったが、過去5年間での多岐にわたる事業推進において、具体的な数値やアンケート結果等から、細部まで評価・検証に取り組み、今後の阿波市全体の教育活動がより充実したものとなるよう実践されてきたことに改めて敬意を表したい。そして、「あすに向かって 人の花咲く やすらぎと感動の郷土・阿波市」の実現に向け、未来を担う人材育成を目指し、「未来をつくる力」「たくましく生きる力」「郷土を愛する心」の基本理念を柱に「学び合う 深め合う 高め合う 阿波市教育」が今後も積極的に展開されることを期待し、令和7年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価に関する報告について、所見を述べたい。

1. 点検・評価について

阿波市第2次教育振興計画で策定した全68事業について、事業ごとに評価シートを作成している。各事業とも、具体施策や実施実績状況が記載されており、PDCAサイクルを生かし実施していることがよくわかるものとなっている。

68事業のうち、A評価は16事業、B評価が52事業となっており、C・D評価の事業は見あたらない。これは、前年度と同じ数値であるものの、検証した結果に基づいた事業を着実に推進してきた結果によるものであると考えられる。A評価の16事業については、必要性や有効性等の項目も高く評価されており、今後もさらなる取り組みの継続をお願いしたい。B評価の52事業の中にも必要性や有効性の項目で高評価を得ているものもあり、あと少しの工夫改善次第ではA評価となりうる事業も多々見受けられた。反対に、同じB評価でも、効率性についての評価が低い事業がいくつか見受けられる。これらの事業については、ICTの有効活用や積極的な啓発活動等を取り入れながら、事務作業の効率化や負担軽減がはかれるように期待する。

次に、今後の事業の方向性を見てみると、「さらに重点化する」となっている事業が無く、「休止・廃止を検討する」となっているのが1事業であり、残りの67事業は「現状のまま継続する」となっている。令和7年度に実施した各事業の成果と課題をもと

に、今後も、より一層各事業に工夫改善を加えながら取り組むことで、学び合い、深め合い、高め合う阿波市教育が展開されていくことを期待する。また、見直すべき事業については大胆な改革や廃止等も必要になってくることもあると思われるため、今後も、児童生徒への学習効果や市民のニーズに応じた事業が展開されることを期待する。

2. 主な事業の取り組みについて

(1) 学校教育「食育を基盤にした、知・徳・体の調和のとれた生き抜く力の育成」
学校教育関係の23事業については、A評価が10事業、B評価が13事業となっており、A評価の事業が昨年より1事業減少したものの、着実に成果を上げていると思われる。特に、重要施策の業績評価指数の中にある「保護者の学校教育に対する満足度」は小学校が91.0ポイント、中学校が87.3ポイントであり、目標値より大きく上回っていることについては、教職員の真摯な実践や教育委員会をはじめ、関係諸機関の手厚い支援があったからこそ、このような数値として表れたことだと思われる。今後も、阿波市内に通うすべての幼児・児童生徒が安全かつ安心に過ごすことができる学校となるよう継続した取り組みを大いに期待する。

幼児教育については、幼児期の特性を踏まえた充実した教育が実践されており、幼児の健やかな心と体の育成に取り組む、成果を上げている。また、阿波市独自の英語指導講師や英語担当の保育教諭による英語活動が年間を通じて計画的に実践できており、幼児が楽しんで外国語や外国の文化にふれることができている。今後も、小学校との連携を積極的に図りながら、社会性や道徳性、豊かな感性等を身に付けていけるように各事業の実施をお願いしたい。

生きる力の育成については、学力の育成、豊かな心の育成、教職員の資質向上、環境教育、食育、就学援助、キャリア教育の各事業がA評価であり、着実にその成果が上がっていると思われる。また、教職員の資質向上については、予定されていた児童生徒使用の端末の更新、新規アプリケーションの導入や教職員の研修が実施されている。すべての教職員のICT活用能力をはじめ学習指導や生徒指導等での力が発揮できるように、今後も研修の充実に努めてもらいたい。

家庭や地域との連携についても、学校支援ボランティアによる支援や外部講師を招聘することで成果が上がっている。これからも学校運営協議会をさらに活性化させ、地域とともにある学校づくりを進めていただきたい。

特別支援教育・帰国外国人児童生徒の支援の充実については、昨年同様に「帰国・外国人児童生徒への支援」事業がA評価であり、事業推進による成果が見られる。多様化する社会の中で、阿波市においても今後、ますます手厚い支援が必要になってくるとされる。教育支援センターや青少年育成センターをはじめとする関係諸機関とも連携を図りながら、幼児・児童生徒一人ひとりの実情に応じた取り組みがなされるように期待する。

安全・安心な教育環境づくり，小・中・高の連携，学校施設の整備についてもしっかりと取り組んでいただいている。すべての子が，自分の命は自分で守るという意識と行動力をしっかりと身に付けていけるように，今後も充実した教育活動に取り組んでいただきたい。地域全体の連携強化については，B評価からA評価となり，前年の振り返りによる事業推進により向上された結果だと思う。各校に設置されている学校運営協議会とも連携しながら，地域ぐるみで子どもの危機管理能力が育成されるように期待する。

学校施設の整備については，多目的トイレの設置や屋内運動場の照明改修工事等，計画的に修繕・改修に取り組んでいただいている。毎年，異常ともいえる暑さへの対策として屋内運動場への空調設備の設置をはじめ熱中症対策事業等にも早急な対応もお願いしたい。

(2) 生涯学習「誰もが学び続け，社会参画する力を育む生涯学習の充実」

生涯学習推進体制と設備の機能充実・機能強化については，文化協会をはじめとする関係機関と連携を図りながら，多種多様な講座が開催されている。また，図書館の蔵書数や利用者の数ともに増えてきており，市民にとってよき学びの場となっている。今後ますますの魅力ある図書館運営を期待する。公民館での活動も活発に行われており，各種講座に多くの方が参加している。参加者へのアンケートでは，各講座とも非常に高い満足度を得ており，公民館が生涯学習の拠点としての役割をしっかりと果たしていることを実感する。今後も市民のニーズを取り入れながら，さらに充実した事業が展開されるように期待する。

(3) スポーツ振興「生涯にわたりスポーツに親しむ環境づくり」

阿波シティマラソンやスポーツフェスティバルの開催等，市民が運動に取り組む機会を広げようとする事業が展開され，市民のニーズも高まってきているように思われる。令和8年度からは，阿波シティマラソンに代わるイベントが予定されているようだが，広報やケーブルテレビ等を活用し，広く粘り強く情報を発信しながら，参加者が少しでも増え，意義のある事業推進を継続していただきたい。また，市内各スポーツ施設の開放や，自分の身近な場で，いつでもだれでも，気軽にスポーツに親しめるような機会も設けることによって，「市民ひとり1スポーツ」に，また一歩近づけるのではないかと考える。

(4) 芸術・文化振興「郷土を愛する心と創造力が育つ，市民主体の文化芸術活動の促進」

阿波市文化祭は，文化協会を中心に学校や各団体とも共催しながら実施できており，市民が文化・芸術に親しむことができるよい機会となっている。また，各種催しをケーブルテレビ等を活用し，多くの市民が鑑賞できる機会が設けられていることは大いに評

価できる。文化財の保存・活用についても、古墳発掘の展示会や藍のふるさとパネル展の開催、文化財ガイドブックの作成・配布等、積極的な有効利用に取り組んでいる。土成歴史館の改修も終え、市場歴史民俗資料館とともに入館者数が増加し、成果を上げていると思う。今後も、阿波市の先人や貴重な文化財から多くのことを学び、ふるさと阿波市を誇りに思い、阿波市で活躍する人材の育成を期待する。

(5) 青少年健全育成「青少年の健全な生活を守り抜く環境づくり」

青少年の健全育成の推進については、育成センターが中心となり、警察や学校等と連携を強化して積極的に活動に取り組んでいる。環境美化活動では、各学校の実情に応じた様々な取り組みが実践できており、それに応じた支援体制もできている。地域ぐるみの健全育成についても、クリスマスリース作りなど、親子で楽しみながら、それぞれの年齢や発達段階に応じた魅力的な活動が展開されている。また、ブックスタートや図書館おはなし会など、読書や読み聞かせといった「本に親しむ活動」を多く取り入れている。今後も、市民のニーズをしっかりと把握して、多くの市民が参加してみたいと感じる事業を実施し、あわせて家庭でも健全育成への理解と協力を促す取り組みが展開されるよう期待する。青少年の居場所づくりの推進については、B評価ではあるが、「休止・廃止を検討する」とされている。理由については、青少年の利用者の少なさが挙げられているようだが、阿波市に居住する青少年が、今、何に興味があるのか、何をしてみたいのかをしっかりと把握する必要があると考える。費用や機材などの準備や人材不足といった様々な難しい面もあると思うが、e-スポーツの導入やドローン、最新の ICT 機器を活用した魅力ある事業の展開等、これからの阿波市を支える若い世代の人が多く集えるような事業も期待する。

(6) 人権教育・国際理解「多様性を認め、互いに尊重し、つながりを実感できる社会づくり」

人権学習・啓発の推進については、人権啓発講座や人権フェスティバル等の開催により多くの参加者を得ており、その成果は上がっている。また、指導者の養成においても、県内はもとより、全国レベルの各種研究大会に参加することで、個々の人権意識を高めようと努力していると思われる。ぱあわーあっぷ事業についても、年々参加希望者が増加し、地域や学校からのニーズに応えながら、充実した取り組みになっているように感じる。様々な人権問題に対して、気軽に学べるワークショップの実施等、今後も、市民の人権意識のさらなる向上をめざして、継続して事業に取り組んでいただきたい。

国際感覚豊かな人材の育成と国際交流については、英会話教室や中国語講座を実施し、開催回数こそ変化はないが、参加者数は年々増加していることから、市民の中には、英会話に関心があったり、外国の文化への興味があったりする人が多くいるものと思われる。興味・関心のある市民が、気軽に参加できるような実施方法や参加の呼びかけを工

夫することで、より充実した事業となるように期待する。

おわりに

阿波市第2次教育振興計画（前期計画）令和7年度実施の全事業に対する評価結果について、私なりの所見を記述しました。本計画に基づき、多岐にわたる事業を少しでも向上させようとして尽力いただいております。阿波市教育委員会をはじめ各種教育行政に携わる皆様方には、心から感謝と敬意を表します。これまでの阿波市教育振興計画（前期計画）の結果を検討・評価し、より充実した令和8年度からの後期計画の推進を期待します。

はじめに

令和3年度に策定された「阿波市第2次教育振興計画（前期計画）」は、令和7年度で前期計画の最終年度となっている。毎年、多岐にわたる事業項目について、具体的な数値やアンケート結果等をもとに、評価・検証に取り組み、これからの阿波市の教育行政がより充実したものとなるよう実践されていることに敬意を表する。

阿波市の将来像である「あすに向かって 人の花咲く やすらぎと感動の郷土・阿波市」の実現に向け、未来を担う人材育成を目指し、「未来をつくる力」「たくましく生きる力」「郷土を愛する心」の基本理念を柱に「学び合う 深め合う 高め合う 阿波市教育」が今後も積極的に推進されることを期待し、令和7年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価に関する報告について所見を述べたい。

1. 点検・評価

阿波市第2次教育振興計画で策定した全68事業について、事業ごとに評価シートが作成されており、具体施策や取組状況が丁寧に記載されている。PDCAサイクルに基づいた検証と改善が着実に実践されていることが、各評価シートからも読み取ることができる。事業評価については、68事業のうちA評価が16事業、B評価が52事業であり、C・D評価の事業はなかった。昨年度と比較してA評価が1事業増加しており、継続的な取り組みの積み重ねが着実に成果として表れてきていることは喜ばしい。A評価の16事業については、必要性・有効性をはじめとする評価項目においても高い水準を維持しており、引き続きその取り組みが継続されることを期待する。

B評価の52事業のうち、必要性や有効性において高評価を得ている事業も多く、取り組み方の工夫や改善によってA評価へ引き上げられる可能性を十分に秘めている。一方で、効率性の面で課題が見られる事業については、ICTの積極的な活用や業務プロセスの見直しを通じて、限られた資源の中で最大限の効果が発揮できるよう改善を期待する。今後の事業の方向性については、67事業が「現状のまま継続する」とされており、安定した推進基盤が整っていることがうかがわれる。しかしながら、社会の変化や市民ニーズの多様化に対応していくためには、現状維持にとどまらず、各事業の内容を不断に見直し、真に必要な事業へ重点化していく姿勢が求められる。令和7年度の成果と課題を糧に、子どもたちの学びと市民生活の充実に向けた阿波市教育のさらなる発展を期待する。

2. 主な事業

(1) 学校教育

学校教育関係23事業については、A評価が10事業、B評価が13事業となっており、4割以上の事業がA評価を獲得していることは、日々の教育実践の積み重ねの成果として高く評価できる。とりわけ、「保護者の学校教育に対する満足度」が小学校・中学校ともに目標値を大きく上回っていることは、子どもたちの学びと成長を支える学校・家庭・地域の信頼関係が着実に築かれてきている証といえる。今後も、すべての子どもが生き生きと学び、安心して学校生活を送ることが

できるよう、知・徳・体の調和のとれた教育のさらなる充実を期待する。

生きる力の育成を重視した教育内容の充実については、幅広い分野にわたる 8 事業が A 評価であり、子どもたち一人ひとりの成長を支える取り組みが着実に根付いてきていることがうかがわれる。家庭や地域との連携・協働においても、学校支援ボランティアや外部講師の活用を通じて学校と地域が一体となった教育環境が整いつつある。子どもたちが地域の中で豊かに育まれるよう、学校運営協議会を核とした地域ぐるみの学校づくりがさらに発展することを期待する。

帰国・外国人児童生徒への支援事業は A 評価であり、多様化する社会の中で今後ますます手厚い支援が求められる。関係機関と連携しながら、一人ひとりの実情に応じた取り組みを進めるとともに、日本語指導が必要な児童・生徒の増加を見据え、補助事業等を活用した支援体制のさらなる充実を期待する。

安全・安心な教育環境づくり、小・中・高の連携については、安全教育の充実事業が A 評価となっている。すべての子どもが「自分の命は自分で守る」という意識と行動力を身に付けられるよう、今後も青少年育成センターや警察署をはじめとする関係機関と連携しながら、安全教育活動の充実に取り組んでいただきたい。

学校施設の整備については、施設バリアフリー化・教育施設の充実事業が A 評価であり、子どもたちが安全で快適に学べる環境づくりが着実に進んでいることが評価できる。引き続き阿波市学校施設長寿命化計画に基づいた計画的な整備を進めていただくとともに、近年の記録的な暑さを踏まえ、子どもたちの健康と安全を守る観点から、屋内運動場への空調設備設置をはじめとする熱中症対策についても、優先度を高めて取り組んでいただくことを強く望む。

(2) 生涯学習

生涯学習施策については、各種講座の開催事業が A 評価となっており、市民が生涯を通じて学び続けられる環境が着実に整備されてきていることがうかがわれる。図書館においては蔵書の充実と利用者の増加が続いており、世代を超えた市民の知的活動を支える拠点として定着しつつある。今後も市民が気軽に立ち寄り、学びを深められる図書館づくりが推進されることを期待する。また、公民館における各種講座への参加者の満足度の高さは、地域に根ざした生涯学習の場として市民に広く受け入れられている証といえる。今後は、デジタル化の進展や市民ニーズの変化にも柔軟に対応しながら、誰もが学びに参加できる生涯学習環境のさらなる充実を期待する。

(3) スポーツ振興

スポーツ協会やスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブが連携し、市民が運動に取り組む機会を広げる事業が展開されている。広報やケーブルテレビ等を活用し、広く粘り強く情報を発信しながら、参加者が少しでも増えるよう継続していただきたい。

(4) 芸術・文化振興

芸術・文化振興施策では文化財の継承と活用事業がA評価となっている。

阿波市文化祭をはじめ、文化協会を中心に学校や各団体と共催しながら実施されており、市民が文化・芸術に親しむ良い機会となっている。また、各種催しをケーブルテレビ等で配信し、多くの市民が鑑賞できる機会が設けられている。文化財の保存・活用についても、古墳発掘の展示会や藍のふるさとパネル展の開催など、積極的な活用に取り組んでいる。今後も、阿波市の貴重な文化財から多くを学び、地域で活躍する人材の育成につながるよう期待したい。

(5) 青少年健全育成

青少年の健全育成の推進については、青少年育成センターを核として警察や学校等の関係機関が一体となり、地域全体で青少年を見守り育てる体制が整いつつある。環境美化活動においても、各学校の実情に応じた取り組みが実践されており、青少年が地域への愛着と責任感を育む機会となっている。また、家庭教育の向上については、親子を対象とした各種事業を通じて家庭教育の重要性が広く浸透しつつあることは評価できる。今後は、学校・家庭・地域が連携しながら、青少年一人ひとりの成長段階に応じた支援が継続的に展開されるよう期待する。青少年の居場所づくりの推進については、B評価であり、青少年の利用者の低迷により勤労青少年ホームの解散が予定されている。今後は公民館や体育施設などを活用しながら活動の場を確保していただき、引き続き青少年が気軽に集い、活動できる環境が維持されるよう期待する。

(6) 人権教育・国際理解

人権教育施策では、ばあわーあつぷ事業がA評価となっている。人権学習・啓発の推進については、人権啓発講座、人権フェスティバル等で多くの参加者を得ており、その成果は上がっていると思われる。また、ばあわーあつぷ事業についても、地域や学校からのニーズに応え、充実した取り組みになっている。様々な人権問題に対して、市民の人権意識のさらなる向上をめざして、継続して事業に取り組んでいただきたい。

国際感覚豊かな人材の育成と国際交流については、英会話教室や中国語講座を実施しており、他言語や外国文化に関心を持つ市民は多いと思われる。今後は、より多くの市民が気軽に参加できるよう工夫を重ね、さらに充実した事業となるよう期待する。

おわりに

令和3年度から令和7年度までの前期計画の最終年度にあたる令和7年度の全事業について、所見を述べさせていただいた。前期計画の5年間にわたり、具体的な数値やアンケート結果をもとに評価・検証を積み重ね、阿波市の教育行政の充実に向けて真摯に取り組んでこられた阿波市教育委員会をはじめ教育行政に携わるすべての皆様に、心から敬意と感謝を申し上げる。前期計画で積み上げてきた成果と課題を十分に踏まえた上で、令和8年度からの後期計画においては、阿波市が掲げる「学び合う 深め合う 高め合う 阿波市教育」の理念がより一層具現化されることを期待する。